

5年道徳	主題名「誠実に」 1-(4)正直誠実・明朗 資料名「手品師」
5年1組 教諭 村田 秀一	<2次公開>6校時 14:20~15:05

1. 主題設定について

内容項目の特性・特徴

本主題は、道徳の内容1-(2)「より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する」と1-(4)「誠実に明るく心で生活する。」に当たる。高学年の発達段階においては、夢や目標に向かって、自分に対する誠実さが一層求められ、特にその誠実さが内に充溢するだけでなく、外に向けて発揮されるように配慮する必要があるとされている。

主題の分析

誠実さとは、誰が見ている、いないに関係なく、相手のことを考え、自分の良心に従い、真心をもって行動することである。自分自身の思いについて正直に考え、自分自身の決定に従って行動することは、明朗快活な生活の源となると考える。

本学級子どもたちは、自分の思いや考えを最優先し、他者の思いを想像しながら行動することに難しさを抱える児童が多い傾向がある。

本主題を通して、自分の弱さを乗り越えて誠実に明るく生きていこうとすることの大切さや自分自身に対して誠実であることの大切さについて、考えを深めさせていきたい。

2. 授業改善に向けて

改善1【確かな学びの積み上げがある教材化】

・他の教育活動と関連付ける

道徳で学んだことを他の教育活動と関連付けて考えることができる指導計画を教師が行う。本資料では、特別活動の「異年齢交流」や「委員会活動」、総合の実践と関連付けて、自分の良心に従って行動する素地を高めていきたい。

・「自分ごとになる」教師の発問の工夫

悩んでいる手品師を共感的に捉えさせ、自分が同じ立場であったらどう行動するかを話し合わせる。葛藤の中にある手品師の状況に児童自身を投影させることで、自分の言葉で手品師の悩みを語らせ、本音を出させていく。そうすることによって、子どもの多様な感じ方、考え方を引き出し、道徳的価値についての自分の感じ方、考え方を自覚させていく。

改善2【子どもの学びが高まる3つの場】

・つかむ場

児童がもつ将来の夢について考え、そのためにはどのような努力が必要かを話し合うことで、本時の手品師の夢を共感的に捉えられるようにする。また、資料を前半

だけを読むことで、手品師の置かれる状況を自分ごととしてとらえ、課題をつかむことができるようにする。

・わかる場

夢に向かってひたむきに努力している手品師が友人の誘いと男の子との約束で「迷いに迷った」葛藤を共感的に理解できるようにするために、「大舞台に立ちたい」「約束を果たさなきゃ」の2つで迷っていること、さらに自分ならどうするのかを共感的に交流する。

・たしかにする場

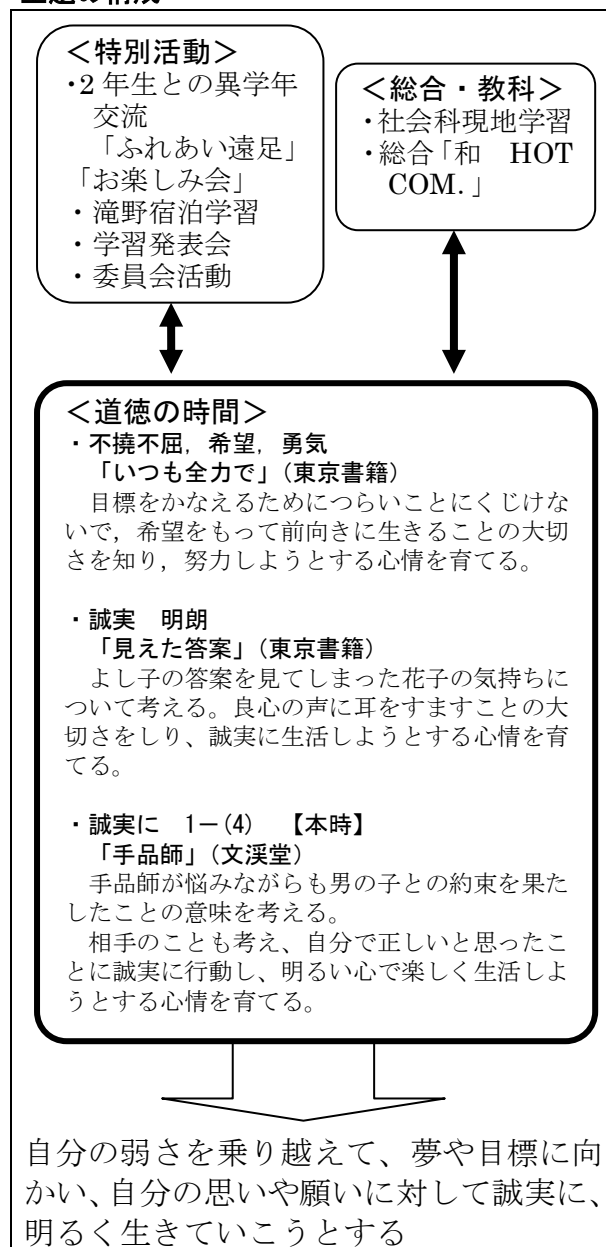
手品師が悩んだ末に選択した自分の決断に対し、さすがさを感じていることを確認した後、日常生活に見られる子どもたちが誠実に生活している様子を写真を交えながら教師が紹介する。

3. 主題構成



・主題のねらい

相手のことも考え、自分で正しいと思ったことに誠実に行動し、明るく心で楽しく生活する。

・主題の構成



4. 本時案

<p>本時の目標 自分の利害損得にとらわれることなく、自分の中にある誠実な心を見つめ直し、明るい人生を送ろうとする心情を育てる。</p>		
<p>場</p>	<p>子どもの意識の流れと学習活動</p>	<p>教師のかかわり</p>
<p>つかむ</p>	<p>自分の「夢」について交流をし、手品師の夢を共感的に考え、「約束」との迷いをつかむ。</p> <p>○自分の夢を発表し、叶えることの素晴らしさを感じる。 (消防士になりたい!) (世界を驚かせたい!) (夢を叶えるために努力)</p> <p>○「手品師」の資料(前半)を読む。(～迷いに迷いました。) ○手品師の迷いについて考える。【話す】</p> <p>手品師はどうすべきだろう?</p> <p>〈大劇場〉   〈公園〉</p> <p>○友人の誘いがあったときの手品師の葛藤を考える。【話す】</p> <p>迷いに迷った</p> <p>大劇場 ← 男の子 →</p> <p>前からの夢をあきらめたくない。 この日のために練習してきた。 せっかくチャンスが来たのにあきらめたくない。 友達がチャンスをくれた!</p> <p>さびしい生活をしている男の子を喜ばせてあげたい。 男の子との約束の方が最初だから、守らなくてはいけない。</p> <p>夢に対する強い気持ち 約束を守る温かい心 どちらも大切</p> <p>○後半の資料を読む</p> <p>こんなに悩んでいたのに! 「あしたは行けない」きっぱりと言いました 約束を大切にしたい気持ち!</p> <p>自分の決めたことに対する自信 たった一人のお客さまを前に素晴らしい手品を演じていた 男の子の笑顔を見られてよかった</p>	<p>・自分の夢を語り、そのために努力し叶えることは素晴らしいことだと感じさせる。 ・今回、手品師が夢を追いかけている様子を、子ども達が自分に置き換えて考えられるように強調する。</p> <p>【ICT③資料の提示・共有】 どの子にも大まかな話の展開が分かるように、登場人物の置かれている様子を確認する。 口頭で確認する程度。</p> <p>・手品師の迷いを自分の経験と重ねて共感的に考えさせる。</p> <p>【吟味する交流の手立て】 ・「自分だったら」という観点をもたせ、友達と比較、関連させることで一人一人の価値観を深まらせるようにする。</p> <p>・手品師の行動についてどう思うかを考えさせるが、あくまでも「自分は」という視点からはずれないようにする。</p> <p>・自分で決めたことに対する自信の大切さに気付くことができるよう、「素晴らしい手品」ができた理由を考えさせる。</p>
<p>わかる</p>	<p>手品師の葛藤に共感しながら、「自分ならこうする」ということを共感的に交流し、自分の行動に自信をもつことの素晴らしさが分かる。</p>	
<p>たしかにする</p>	<p>○教師の話を聞く 学級での日常の様子。 誰もやりたがらない仕事を、自分はやるべきだと考えて行う教室に戻らなければいけないが、友達のことを気にかける姿</p> <p>自分がこうした方がよい、正しいと思うことをすることは難しいけれど、とても大切なことなんだ。</p>	
<p>本時の目指す子どもの姿</p>	<p>正しいと思ったことを行動に移していくことの大切さと自分の生活への意欲を高める。</p>	

5. 板書計画

